

「コウノトリファンクラブ」に寄付先を変更した。

③ 寄付金額は3万円とし、残金はSGS運営費として活用している。

2期生 辻村 允夫

8-6 米つくろう会の地域活動

グループ名：米つくろう会

メンバー名：今村信之、大石喜代子、大塚守、大谷敏行、岡田道子、岡部京子、長谷川八重子、
宮本康男、村尾三樹雄、渡邊博治（SGS5期）、海川隆裕、佐藤淑子（SGS6期）、
木村民亮（SGS7期）

(イ) 柚耶の郷における活動

米つくろう会は、神戸市シルバーカレッジ生環11期生のグループ学習チームとして結成し、お米の需要と水田の拡大に繋がることを提言・実行することを目的として活動を継続しています。

柚耶の郷の圃場は垂水区名谷町にある小さな棚田で、雑草が生い茂り、竹藪が迫っていた耕作放棄地でした。グループ学習の一環で、この休耕田を復活させ、伝統農法で有機米を作り、街の中に美しい田園風景を創りだしました。

この田んぼは小学校の通学路に面しており、子供達はこの風景を見て、何かを感じとっていると思います。できるだけ長く活動を継続することが、私たちに与えられた使命だと思います。

そして、今年は7回目のお米作りでした。初めてこの風景を見たとき1年生だった児童は、今は中学生になっています。



総出で田植え



稲刈り、はさ架けを終わって

(ロ) 垂水区多聞東中学校

2007年に多聞東中学校の校舎の屋上に一坪田んぼを作り、さらに、2008年には校舎と運動場の間に20m²の棚田を作って以来、有機米栽培の指導をしています。田んぼ作りから、種まき、田植え、稲刈り、脱穀、粃摺りまで、自分達で作ったお米をおにぎりにして食べるという貴重な体験をした子供たちは、きつのご飯好きになり、健康な大人に育ってくれるものと思います。

また、保田先生にお願いして、中学2年生に食育の授業をしていただいたり、農地の多面的機能の授業なども実施しました。



一坪田んぼで田植え



校舎と運動場の中の棚田で稲刈り

(ハ) 垂水区つつじが丘小学校

2009年につつじが丘小学校のタッチプールを改造して8㎡田んぼを作り、5年生に有機米栽培の指導をしています。子供たちは、立派にお米を育てて収穫し、おにぎりにして食べています。

また、3年生全員(20数名)が、柚耶の郷の田んぼの生き物調べに来てくれます。そして、ホウネンエビやカブトエビなどを採集して持ち帰り、学校の田んぼで育てています。



小学校5年生の田植え



小学校3年生の生き物調べ

(ニ) 篠山市真南条における活動

兵庫県の農業就業者の高齢化率は70%に達しており、年々、耕作放棄地が増えています。

真南条地区も同じ状況で、私達にはできるだけ広い農地を作付け・管理することを期待されています。2008年に水稻5反と黒豆などの畑3反あまりを栽培して以降、活動を継続していますが、会員数の減少に伴い、栽培面積を減らさざるを得ない状況になっています。



丹波黒枝豆の収穫



100m田んぼの草取り

また、黒枝豆の出荷作業、玉ネギ苗植付けと収穫などの農村支援や種々のイベントに参加するなどの地域との交流を行い、少しでも地域の活性化にお役にたてればと思っています。



丹波黒枝豆の出荷作業助成



地域の餅つき大会に参加

5期生 村尾 三樹雄

8-7 兵庫県内の良質食材生産者への激励・応援活動

1. 活動テーマ・・・「地産地消」「安全・安心」で農漁村と都市とを元気に！

(1) 登録グループ名：「ひょうご食の探検隊」（2006年4月～2011年4月）

(2) メンバー名：全員がSGS出身者、()内はSGSの期

川田陽太郎（1期）、嶋谷徹（1期）、宮田隆郎（2期）、藤田祥男（2期）、安部浩三（2期）

大西隆史（2期）、磯崎康伯（4期）、金築敦子（4期）、重松清子（4期）、嶋谷満洲子（4期）、

角本功（6期）、衣笠年子（6期）、小西茂（6期）、中村敏（6期）、水船修（6期）

高山吉隆（6期）（以上16名、ただし全員が同時期ではなく、卒業や新入会で変動あり）

(3) 探検隊結成の動機

① 「食べ歩き大好き」の集い → 食の切り口で楽しく学習しよう。

② 学習対象 → 郷土である兵庫県

（「但馬」「丹波」「播磨」「摂津」「淡路」の旧五カ国からなる広域県）

③ 旧来の特産品＋新規開発特産品 → それを活用した加工食品 → メンバーの関心増大

(4) 探検活動の目標設定

① 食材の宝庫「兵庫県」で、「地産地消」「安全・安心」をベースにしている生産者を訪問・激励

② 特に創意・工夫で特産品開発等、地域の活性化に努力している生産グループと交流

③ 交流・見学で得た情報 → 都市住民に発信 → 「生産者」と「消費者」間の架け橋活動を指向

④ 阪神間等都市内での良質食材販売箇所の発掘

(5) 探検の軌跡

（詳細内容は、「探検レポート」を参照されたい）

① 探検期間・・・2006年9月～2011年4月

② 探検回数・・・24回



- ③ 訪問先・・・80箇所
- ④ 交流・懇談先・・・61箇所

(6) 訪問先の6分類

- ① 伝統的特産品を守る生産者
- ② 「安全・安心」の農作物生産者
(ひょうご安心ブランド、コウノトリブランド等)
- ③ 地域ぐるみの特産品作りグループ(兵庫県認証食品等)
- ④ 女性パワーによる地域活性化グループ
(生活 研究グループ等)
- ⑤ 市内で良質食材を提供している販売店・飲食店



「播磨王」にんにくの北本恵一さんと

(7) 訪問後のアフターフォロー活動(SGS卒業後も続行中)

- ① 「ひょうご食の探検隊」のホームページ作成・更新(藤田隊員)→一般市民に訪問先情報発信
(従来インターネットにHPアドレスを入れないと検索できないので不便であったが、検索数が増えた効果で、最近「ひょうご食の探検隊」で検索すると、「目次」が現れ、それから派生的に個別内容情報も見えるようになった。2013年3月までに再確認・更新の予定。)
- ② 「ひょうごふるさと館」への紹介活動
(兵庫県の外郭団体の「兵庫県物産協会」の傘下にある「ふるさと館」へ、希望する訪問先を紹介し、同館で販売できるように斡旋。神戸市内の都心・三宮そごう新館5階で宣伝販売できるので、大変感謝されている。)
- ③ 訪問先の生産者の農作物・加工品を継続的に購入ならびに他者へ紹介
(無農薬栽培の米・野菜・果物・加工品等を直接定期購入または注文購入。販売店・直売所での選択購入。それらの美味・安全情報を家族・親戚・友人等に紹介し購入を勧める。)
- ④ 別途グループを引率しての再訪・・・旧交を暖め、固定ファンを増加させる。
(三田ウド農家「しきのかほり」、「あまごの郷」「かんでかんで」等々の地産料理店へ、家族や友人を案内して再訪・・・固定ファンを口コミで次第に増やしてゆく。)
- ⑤ 阪神間での県産食品のイベントや定期出張販売で、旧交を温め、購入し、激励する。
(明石公園での農業祭、元町通りでの定期出張販売等々で購入・激励したり、友人にも情報提供する。)
- ⑥ 「有機レストラン」等を選んでの会食
(阪神間に増加している「有機野菜レストラン」の情報を確保し、機会があれば家族や友人たちと利用する。)
- ⑦ ひょうご安心ブランド・ファンクラブ」への積極協力
(兵庫県農政環境部・農業改良課が推進している「安心ブランド・ファンクラブ」の加入者数増加に積極協力し、発信された「安心ブランド農作物」の販売店訪問や関連イベントに参加する。)
- ⑧ 後の検討課題・・・情報発信ネットワークの構築
「ひょうご食の探検隊」のホームページを活用し、「安心・安全食材」に関する情報発信

を検討していたが、上記の「ファンクラブ」発足で、農作物に関しては充足される方向が見えてきた。しかし、行政の制約もあるので、それを補完できる情報ネットが構築できないか？ 今後の課題である。



赤穂の発芽玄米餅開発の松田光司・静夫妻と



出石の無農薬米農家西垣一雄・浩司父子と



SGS 主催懇親会での「黒っこマザーズ」さん



手作り品を販売する「氷上つたの会」さん

SGS 関連の皆様へのお勧めとお願い

われわれ「ひょうご食の探検隊」は、2006年9月から2011年4月までの4年半の間に兵庫県内の良質食材の生産者や料理店80箇所を訪問し、その内61箇所では親しく懇談・交流を深めました。

(前半は内陸部、後半は阪神間を主対象とした。)

これらの訪問・激励活動で得た情報は、インターネットで「ひょうご食の探検隊」で検索していただければ、目次が現れ、それから個別先を開けば、その概要が分かるようになっています。

是非一度検索をお願いいたします。

兵庫県は、皆様ご承知のように、旧国の5カ国で構成され、日本海・瀬戸内海・太平洋と3つの海洋に面し、多様な風土から生まれた豊かな食材の宝庫で、全国有数の特産物も沢山あります。

われわれ探検隊は、その食の宝庫に着目し、それらの伝統的特産品や地域おこしの新開発特産品、そしてそれらを安全・安心・美味をモットーにして生産・加工・料理している良心的な先を選んで訪問いたしました。(保田先生や兵庫県農政環境部の紹介先も多い)

訪問・激励活動で実感したことは、各地域の皆さんが大変な努力・工夫をして、消費者の健康によいものを作っている事実です。まさにこれは「医食同源」の世界です。われわれ都市の消費者が、「安価」「見かけ」のみを基準として購入するならば、「悪貨は良貨を駆逐する」のコトワザどおりになってしまうと心配でなりません。